

比較日本学教育研究部門研究年報 第14号 目次

《巻頭言》

古瀬 奈津子	4
--------	---

《第19回国際日本学シンポジウム》文化史上の源氏物語

松岡 智之 【総括】	6
------------	---

〈セッションⅠ〉制度・規範の変遷と『源氏物語』——明文化された制度と慣習としての制度——

講演

胡 潔 『源氏物語』と平安時代の婿取婚	9
---------------------	---

研究発表

重田 香澄 『源氏物語』の時代の儀礼と知識 ——「例」と「儀」、「説」——	18
藤村安芸子 日本仏教思想史上の『源氏物語』	25
高野 奈未 注釈史上の『源氏物語』	35
丸山裕美子 『源氏物語』にみる女房・女官の制度 ——尚侍・典侍を中心に——	37

〈セッションⅡ〉表象文化史の中の『源氏物語』

講演

張 龍妹 平安物語文学における「孝」の受容 ——『源氏物語』を中心に——	46
---	----

研究発表

赤澤 真理 建築史の中の『源氏物語』 ——同時代の住宅像と考証学のあいだ——	55
植田 恭代 『源氏物語』にみる舞楽・催馬楽	66
石井 倫子 能の『源氏物語』 ——「源氏能」は何を描くのか——	72
河添 房江 源氏絵に描かれた衣装 ——院政期から近世まで——	79

《第12回国際日本学コンソーシアム 壁をこえる》

◆日本文学部会

包 祐寧 『雨月物語』「夢応の鯉魚」における鯉魚の放生について	90
胡 穎芝 漱石文学における「縹緲」 ——『虞美人草』の「縹緲のあなた」について——	95

林 京華	『門』小論 ——宗助に見る他者性の揺れ——	96
ユルコヴィッチ・トマーシュ	過去という壁を越えた村上春樹の小説の主人公	102
杉江扶美子	向こうからの声たちと小説をこえて ——いとうせいこう『想像ラジオ』と木村友祐『イサの氾濫』において——	106
ティララ・マルティン	落窪の君が壁を越えた時	112
朱 秋而	江戸後期の関東詩壇 ——市河寛斎の「冬の詩」を中心に——	117
范 淑文	真杉静枝文学に語られる「壁」 ——「烏秋」、「母の傑作」の主人公たち——	125
羅 小如	概要	131

◆日本文化部会

清水 真裕	貝原益軒における「楽」の領域	133
董 航	浅井了意の唱導に対する再考察	139
平木しおり	徳川綱吉の御成と美術	146
馬場 幸栄	国際緯度観測事業を陰で支えた岩手の少女たち ——知られざる科学の歴史——	151
潘 蕾	古代日本の「大兄」に関する一考察	155
劉 玥揚、郭 連友、呉 光輝	明治天皇のイメージに関する一考察 ——ドナルド・キーン『明治天皇』を中心に——	161
小沼イザベル	優生思想と人権 ——優生保護法の経済的条項に関する一考察——	168
周 維宏	文化近代化の含意と測定指標について	174
馬場貴和子	概要	179
古内絵里子	概要	181

◆日本語・日本語教育学部会

宇野 和	Twitterにみるオノマトベに後接する接尾辞ミの機能	183
李 恩兆	日韓外国語の定着形態に関する比較研究	190
永澤 濟	壁をこえた法律家たち ——近代口語化の実践——	196
金 晞泳	日本と韓国の若者言葉 ——構造と造語法による分類を中心に——	203
伊藤 聖子	助詞「は」の習得 ——主題化の発達過程を探る——	213

陳 雲川	中国語母語話者による日本語の関係節の習得について ——日本語の壁を越えられるのか——	220
福田伸一郎	日本語話者の文章に関する直感の数量化から何が学べるか ——個々の直感の壁を越えて——	224
田嶋明日香・洪 春子	概要	230

《研究論文》

巽 昌子	醍醐寺三宝院と座主職の相承 ——『醍醐寺座主讓補次第』からの検討——	233
------	---------------------------------------	-----

《比較日本学教育研究部門活動報告》

部門活動報告	250
研究プロジェクト活動報告	253
投稿規定	262
第20回国際日本学シンポジウムのお知らせ	264
バックナンバーのご案内	265
編集委員より	266